

協賛/協力へのお願い

## ART de Communication

### 地球と子供・愛を繋げるアートの森

第1回東京銀座展 at Jtrip Art Gallery 2010.14tus-18sun March

しぇありんぐ！新しい未来に向かって！

ご案内ブログ URL: <http://shantiudcc.exblog.jp/>

#### ご挨拶

アートをテーマに被災地の子供たちへの継続的支援と、未来の地球平和を願つて世界の子どもたちと手をつないでいこう！2011・03・11. 東北大震災を受けた日本に多くの手を差し伸べてくれた世界の皆さん本当にありがとう！インドやネパールから届いた絵にこめられた純粋な愛のメッセージは、私たちの心を揺り動かさずにはいられません。どの国の子どもたちも、望む未来の地球は、国や地域や言語が違っても、文化宗教の全てを超え、抱くイメージは限りなく同じもので、花と緑あふれた「全ての生き物との共生」を歌っています。あの東北関東大震災は悲しい出来事だったけれども、世界中から届けられた愛によって、多くの素晴らしい物語が生まれました。それを忘れないために、そしていつでも、「ほんとうは心の中で、私たちはいつも手をつないでいること」忘れずに、これから先もずっとずっと助け合っていきたいと願っています。

NGO UDCC代表 斎藤かおる

作成:2011年11月30日。

主催:NGO UDCC国際共通食協力センター(市民団体)

Universal Cooperation Center: URL:<http://www.universal-diet.com>

〒116-0002 東京都荒川区荒川 1-55-4-603 ユニライフ三ノ輪

tel/fax: 03-6806-5414. mobile:斎藤 080-3450-9979 /Email address: [info@universal-diet.org](mailto:info@universal-diet.org)

実行委員会 Project Shanti Kids : Jtrip Art Gallery/アートの力/NGO UDCC

0. はじめに 被災地を応援してくれた世界中の人たち。

## 目 次

1. アートの力。 それは癒しの力。
- 2: 今必要なもの それはアート？
3. 世界中のボーダーを超えて。
4. 子どもたちの未来をどんなふうにしたいの？
5. 本企画内容・開催目的
6. ご依頼 :協賛・協力へのお願い。
7. 持続的継続的な支援活動のために
8. シェアリング、そして協力。
9. さいごに

0. はじめに。 被災地を応援してくれた世界中の人たち。
  - a: 2011年3月11日。東北と関東を突然襲った地震、津波、そして原発事故。あの日を境に、日本を動かしてきた社会の構造は、今大きな勢いを持って変わろうとしています。私は、この東北関東大震災を柏で体験した。7階建ての6階は、信じられないほど揺れた。唯一の背の高い食器棚にしがみつき、そのお皿や器が落ちてこないように必死で抑えた。台所の鍋は床に落ち、物凄い音がした。少し揺れが収まった時を見計らい、段ボール箱に食器を急いで詰め込んだ。私は引っ越しを間近に控えていた。幸いネットとスカイプは通じた。世界中の友人たちからお見舞いのメッセージ、お見舞いの電話が来た。携帯電話で何人かの友人の無事を確認したが、その後は不通状態となった。そして15日、東京に引っ越しを終えました。その2日後から被災地へ行く国際的なレスキューチーム SMCR と連携し、徹夜で被災地の災害本部を探した。UDCCでも寄付金を有志で集め、要望を聞き、足りないもの、欲しいものを用意し、震災から1週間後の陸前高田に向かった。この時、大手のレンタカーは全て借りられなかつたが、あるトラック運送会社が、運転手さんまでつけて、私たちのグループを手

伝ってくれることになり、無事に2トントラック2台分ほどの物資を届けることができた。まだ震災1週間後で、高速を走っているのは、自衛隊と支援物資を運ぶ私たちのような車だけだった。津波被害のあった場所の凄惨さはいうまでもなく悲しいものでした。



2011.18.March 陸前高田市

b: 震災から約1か月後。東京でネパールインダレストランを経営するネパールの友人から炊き出しにいくがあなたも行きますか?と訊ねられました。「あなたが行くなら、私もいかないわけにはいかない。」と答え、すぐさまうちのグループに相応しいと思われる支援物資を調達しなければならないと考えました。

インドの科学研究員からは、本当に毎日励ましの電話が来ていた、さらに放射能の影響を受けた血液を浄化するトルシーティーの研究論文を送ってくれてあり、メンバーには翻訳してもらっていました。今度こそ、トルシーティの実物である。ネットでみて知っていた会社に思い切って電話し、明日いかないとならないが、1000人分用意しないとならないが、資金の余裕がないと伝え、安く売ってもらえないかと電話でお願いした。社長はすぐに快諾し25パーセントの価格で提供しますと言ってくれた。おかげでその日の午後には、お茶を受け取りに行くことが出来たのです。

こうして翌日夜には、民主党の国際交流グループと、ネパールの団体と一つバスで出発し、途中、津波でさらわれてしまった地域を通りながら朝8時、南相馬に到着しました。ネパールの人たちは、全部で30人ほどいた。日本中から集まってくれていた。北は岩手から南は大阪まで、また近くの福島で被災した人まで来て、1000人分の食事をつくってくれたのです。 まだうら若きネパール人のレストランオーナーは、僕は日本にお世話になったから。

60万くらい寄付した、まだ足りないんだろうが今の精一杯と言っていたのが印象的でした。彼らの国は貧しく、仕送りをしないとならない中、皆さん日本の為に頑張ってくれていた。中には1度だけでなく何度も足を運んだ人もいます。私はこのあと1度行き、合計3回足を運び、現地の方、災害本部の方と話をしをし、どのように長期的に支援をしていけばいいのか、ずっと考えていたのです。ここであげたことは、ほんの一部であることは、被災地の方たちはよく御存じだろうと思います。



2011.11.April.何度も足を運んだ日本人とネパール人の有志でつくられたグループ。

### 1:アートの力。 それは癒しの力。

子どもの頃の私にとって、手軽な遊びは絵を描くことでした。 だれにも評価をされないで、ただ好きなものを好きなように描くこと。4歳くらいの頃、住み込みで父の店で働いていたお兄さんが、私の最初の絵の先生。その名前は今でも覚えている。いまにして思えばそれは鉛筆によるデッサン、そのお兄さんの温もりと柔らかい丸いタッチの線が、彼の絵を魅力的にしていました。イメージにイメージが重なりふくらみながら、その優しい穏やかな時間は、今も心のよりどころとなっているのです。

そして小学、中学、高校、大学と結局私は、課目の中で美術をもっとも愛しました。それには理由がありました。 音楽を奏でたり、本を読んだり、絵を描くなどを通じて、自分と向き合う時間を持つことで、間違いなく心は癒されており、また豊かさを学んでいたのです。少々複雑な家庭環境にあった私にとって、絵に触れて自分を保たないで、外の世界との関係を保てなかつたのだと思います。

私たちは誰でも、大学を出て、成人しても、子供の頃から続いている性格や考え方などが突然変わるわけではなく、さらにストレスの多い社会の中で生きていくのに、自分の心のバランスを取るのに、日々誰もが何かしらの癒しを必要としているのではないでしょうか。絵

や音楽などの芸術に親しむことは、一人でもでき、肉体的な負担をかけずに行えます。さらに、音楽の力と絵の力、そして詩の言葉の持つ力が合わさると、それはさらに威力を増し、魂にまで届くバイブルーションとなり、心は自然に癒されます。



音楽と絵が出会うところ さらに癒しが広がる。 Title: Musica by Cecilia

## 2:今 必要なもの アートの力で癒しの力を取戻すこと。

社会は、全て数字を中心になりたっています。企業でも学校でも必ず数字がついて回ります。しかし、唯一数字から切り離された世界にあるのが、本来のアートの世界です。 数字により、物事を図られる世界にずっといると、一体私たちのマインドはどういった影響を受けてしまうでしょう。 そういった結果が、日本の自殺を増大させる結果になっているのは、誰しもが簡単に想像できるのではないでしょうか。

貧しい国の子どもたちは、これまで社会全体が物を所有したことが無いので、失った喪失感はありません。そして、彼らが描く絵には、先進国の子どもたちがすでに失い、隠されてしまった人間の持つ根源的な力を、いまだに秘めています。

アートという言葉英語が語源だと思われがちですが、元々は、インドの古代の言葉サンスクリット語のアートマン=真我からきています。アーティスティックという言葉は、実は魂的、と翻訳するのが一番適当だったのです。そのようにして、芸術に触れていくことを人間はいつも欲していたわけです。



Project Shanti Kids :空間・動き・光をとらえる。 by Yoko(Chinese boy age 6 )

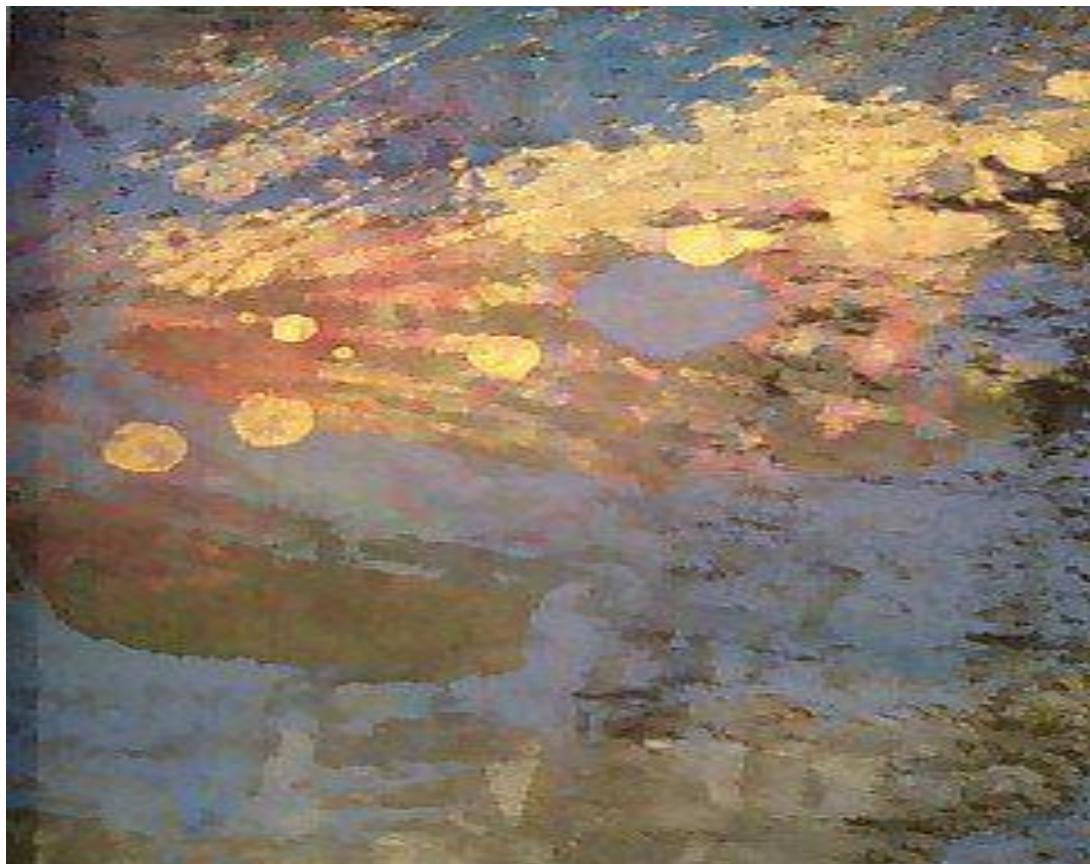
### 3. 世界中のボーダーを超えて。

そして、震災以後、最も顕著にみられる傾向は、世界との繋がりを取り戻したということではないでしょうか。これまで日本は小さな東洋の国で、技術力が優れた国だと思われ、そこに暮らす人々にまで関心を持ってもらうことはあまりなかったのではないかでしょうか。それが、あのような災害をきっかけに、そして原発の事故によって、世界中の祈りを受け取ることになったのです。

Face Book というソーシャルネットワークの持つ力は、現在ではテレビ新聞雑誌などのメディアの力を借りずとも、多くの人々と同じ情報を共有できるようになりました。そこには、自分の記憶の中にはない、知らない国の人々が、知らない言葉を使ってコミュニケーションをし、数多くのアートのコミュニティ、音楽ページが存在します。

そして見たこともない 聞いたこともなかつた世界の音楽や、絵に触れることができます。こういうことを通じて、ニュースや新聞で伝えられてきた情報や知識が簡単に手に入るようにになっています。このことにより、今まで生まれなかつた文化的な産物=アートが生まれ

ていくでしょう。そしてそれが、魂をさらに豊かなものに、そして、地球の裏側にいる友人たちを互いに思いやれる存在になっていくのではないかでしょうか。



ボーダーを超えること。闇の中に光を見出すこと。 Title : New moon by Cecilia

#### 4. 子どもたちの未来をどんなものにしたら良いでしょうか。

今 目の前にあることをこなす、つまり経済的なこと、単に自国の産業を維持するだけ生きるというのは、畳1畳の上に一生暮らすようなものではないでしょうか。

実際そのようなことになったら大変息苦しく、それは籠の中の鳥のような生活です。人間は実際生きることだけ考えると多くの物を必要としません。産業と経済だけを優先させて生きると本当のところ、めぐりめぐって、どこかに支障が出てします。その良くない例として、環境破壊や、経済格差、知識の格差、そしてマインドの持つキャパシティの格差につながっています。 真実の意味で、子供たちの未来を考えた時に、必要になるのは、持続可能な社会を作ろうと願うことではないでしょうか。豊かさとは、単に数字で測れるものでないことは、世界の貧困地域を訪れ、そこで子どもたちの目の輝きと笑顔を見たときに、感じることでしょう。とはいっても、物質的にも豊かであることは人間が人間らしい生活と人生を歩んでいくのにとても必要です。 地球は今、海水温上昇と畜産業から出たメタンガスを原因とした気候変動で、世界中が干ばつと水害という極端な自然災害に見舞われて

います。そして日本で起きた地震だけでなく、世界中で地震が多発しています。気候変動が地震を引き起こしていると伝える科学者もいるようです。そして国連と政府組織で構成されるIPPC600人の科学者は、気候変動が経済に与える影響を2006年に発表しました。そこには、保険医療費、全ての資源、エネルギーの節約、飢餓を減らすこと、その全てに恩恵があるものとして、IPPCの議長ラジエンドラ・パチャウリ氏も、マネカ・ガンジーとともに、菜食の推進をしています。つまりこれが次世代の持続可能なモデルになるとしています。これは2010年の日経エコロジー1月号でも掲載されました。また医学書「チャイナスタディ」Dhr. マクダネル氏は菜食が最も人類とり有効な食事であるかということを、中国での医学研究成果として発表しています。



全世界の人が誰でも食べている共通食すなわち菜食=Vegan Foods

## 5. 本企画内容/開催目的

a. タイトル 地球と子ども・愛をつなげるアートの森。 2012 第1回 銀座展。

b. サブタイトル しえありんぐ ！ 新しい未来に向かって！！

c. 期 程 2012年3月14(火)-18(日)

d. 場 所 Jtrip Art Gallery

### e. 開催目的:

1. アート教育子どもをキーワードに継続的な被災地支援と世界の貧困地域を結びつけ子どもたちの目線から国際交流をはかり平和的未来への礎と築く。  
イベント参加者に対し、この企画とプロジェクトの目的を十分理解認識してもらう。  
個々人の意思で世界を平安なものにしようとするプロジェクトに参加しているという意識を持つてもらう。

2.世代を超え、国境を超え、全ての地域の人々と繋がり、思いやり深い、協力の精神にあふれた大人に育つ機会を提供すること。

※このプロジェクトにより集まった支援金は、イベントの必要経費を除き、被災地及び、参加国の恵まれない地域の子どもたちの今後の教育支援活動、及び次の展覧会の準備金として使用いたします。

主催:NGO UDCC国際共通食協力センター(市民団体)

Universal Cooperation Center: URL:<http://www.universal-diet.com>

〒116-0002 東京都荒川区荒川 1-55-4-603 ユニライフ三ノ輪

tel/fax: 03-6806-5414. mobile:斎藤 080-3450-9979 /Email address: [info@universal-diet.org](mailto:info@universal-diet.org)

実行委員会 Project Shanti Kids : Jtrip Art Gallery/アートの力/NGO UDCC

## ★本企画案

a. プレ活動:開催前に被災地にてイベントの為の準備活動として、参加国の現地の子どもたちに、平和と持続可能な世界をテーマに絵や手紙を描いてもらう。

東北被災地におけるアート＆ミュージックセラピー

インド・ネパールにおけるアート国際交流活動の成果を送ってもらう。

被災しなかった子どもたち(幼稚園～高校)の絵を描いてもらう。

b. 子どもの絵、及び関連アーティストの作品展示:日本・インド・ネパール

c. 開催期間中に親子の為のアートや音楽のイベントを開催。

・アートセラピー:自分自身の感覚と語る時間を持ち、コミュニケーション能力を高めよう。

サポーターはボランティアのアーティスト(美術の勉強をする学生も対象)。

・ミュージックイベント:平和や癒しをテーマにしたプログラム。

インド・ネパール・日本のアーティスト。

讃美歌・サンスクリット詠唱・インドオリッサの踊り・ネパールのポエットリーリーディング・インドやネパールのお話のストーリーテリング。

・UDCC及び実行委員会のメンバーの活動報告(スライド・レクチャ・ビーガンと環境保護・世界平和と国連の推薦する食育についてなどレクチャ)。

・NGO UDCC(市民団体)インドのメンバーによる。フォトアートセラピー(大使館・インドエアラインに働きかけ)

・インスタレーション:世界と繋がろう!スカイ直播间・ユーストリームライブ。

・「プロジェクトシャンティキッズ」の今後の活動案内。(レバノン国立美術館への巡回展:2012年6月以降に来てほしいとのオファー在り。美術展の中でのアートプログラムの実施)

d.プロジェクト参加パスカード制作=Project Shanti kids のパスカード:スタンプを押す。  
※18こま。継続的支援への参加意識を保つモチベーションとして。プロジェクト参加者への特典のスケールとして。

e.絵画展プロジェクトと子供たちへのアートを通じた繋がりを作り、継続的支援活動を補佐するための為の:世界のアーティストを集めた電子書籍・DVD等の計画案  
(編集案:日本と諸外国の子供の絵・Face book で出会った世界のアーティスト・その他プロジェクト参加希望者による作品)

f.アートと連動した国際共通食の提案:ギャラリー階下にあるカフェと連動し、アート展開催期間にビーガンの料理をプロデュースする。

g.各種プログラム通し券つき:プロジェクト参加費案  
(プロジェクト参加費として:ペアアートセラピーワークショップ3500円、コンサートつき:5000円。大人一人3000円※UDCC会員割引。当日入会OK。ドリンクおやつ付き。  
アート/音楽のみの参加費は一人2000円。

h. Project Shanti Kids Tshirts企画。販売。(UDCC入会者は割引)

i.ミュージシャン・各種グループのプロジェクト参加募集案。  
(案:審査あり。プロジェクト参加費として一人3千円二人で5000円。Tシャツとお弁当進呈。  
※経費除き全額参加国の子どもたちの教育活動に使われる。本や電子機器の寄贈 etc)

j.年間プロジェクトサポーター募集案  
チャリティ体験したい人をイベント期間のみならず年間通じプロジェクトサポーターを募集:2000円プロジェクト参加費:Tシャツ進呈。  
(インド・ネパール現地への実際的サポーター)  
(※イベントサポーター・年間プロジェクトサポーターへはTshirts進呈)  
(※イベントヘルプ期間中のサポーターへの用食事支給。できたら交通費も支給。)

k.年間を通じた企業・大使館・NGONPOグループ等への協力協賛、実行委員会への参加呼びかけ案。  
ひとつでも多くの個人、企業と様々な垣根を超え繋がり、実質的なファイナンスなどのサポートだけでなく、真実助け合いの精神を広げていくため。

l. 絵画巡回展案。

被災地、学校、美術館、日本各地の他、世界中の国々（国連なども）

このイベントをきっかけに年間を通じ国際交流できるようにし、次の年へつなげていく。

m. 絵画の里親案

絵画を気に入ってくれた方にフレームつきで販売。絵画の里親になってもらい、子供と直接交流を持つてもらう。（年間サポーター登録をされたボランティアによる活動）

n. 全国・色々な地域の子ども～学生たちへの、今回のプロジェクトへの参加呼びかけ案。

被災地の子どもに限らず、被災しなかった子どもたち、豊かに暮らす子どもたちにも、思いやりの精神と、将来のリーダーシップを培うためにも、アートによるプロジェクト参加をしてもらう。

幼稚園。小学校。中学、高校。そして美術関係の学校・大学に通う学生たちには特に、子供たちのお世話を通して、一人の世界にとどまらないアートの力を引き出す牽引力になってもらう機会をつくる。



2011.10.April 南相馬市:トゥルシー・ティーと、論文を届けに行った時に出会った親子。

## ★現在、協力協賛に参加表明を頂いている皆様。

ジェイトリップアートギャラリー/村口建築設計事務所/オノマシナリー(株)/LLC ラバーセル/トルコ物産バハール/都立雪谷高校同窓生/東京造形大学同窓生/LOKAHI,対日貿易投資交流促進協会(ミプロ)/ネパール公共関係協会日本/NGO ART OF LIVING .

## 6. ご依頼: 協賛・協力へのお願い。

ご覧いただいた企画の中から、具体的な依頼の形を述べさせていただきます。この中で、御社・個人におかれまして、最も参加しやすいものをお選びいただけたら幸いです。

### A:制作・販売

- 1:チラシ・ポスター:紙・印刷。
- 2:子供たちのポストカード:スキャニング代・出力:ポストカード・印刷。
- 3:パスカード:パスカード台紙・印刷・
- 4:Tシャツ:版下・印刷・発送。
- 5:撮影・編集制作:スチール及び映像カメラマン、編集制作
- 6:ビーガン食材:海苔・こんにゃく・野菜・米・スイーツ等

### B:芸術プログラム

- 1:アートプログラム:絵具・画用紙・筆等画材。
- 2:音楽プログラム:音響スタッフ・プロジェクター・録音機材・照明機材。
- 3:ビーガンフードプロデュース:レシピ。

### D:移動・輸送・通信

- 1.各地への巡回展:車両・ガソリン・展示会場・展示備品。
- 2.商品発送:宅急便・メール便。
- 3.通信代。

### E:その他

1. 警備。

2. 保険。

## F: サポーター

(実施までの実務サポーター・イベント時サポーター・年間サポーター)。

1. 母校・会社・地域へのイベントへ参加呼びかけ。

2. 絵画出品参加。

3. 音楽イベント出演参加。

4. 展示・搬入搬出サポーター。

5. マスコミ・メディアサポーター(新聞掲載・ラジオ・テレビ取材等)。

## G: 協賛・協力及び活動支援金。

協賛: 一口5万円。または、個人、グループ、企業様のお名前をお貸しいただく。

協力: 個人及び、企業様のご都合の良い形でのご参加を希望しております。

支援金: 一口3千円。

口座: ただいま プロジェクト専用口座を準備中です。

UDCC口座: 名義NGO 国際共通食協力センター。

ゆうちょ 銀行 記号 10190 番号 81248111

都市銀行よりお振込みの場合: 店名〇八一(ゼロハチイチ), 店番018.

普通預金, 口座番号: 8124811, 電話: 080-3450-9979



2011.08.JULY. @Delhi INDIA .

## 7. 持続的・継続的な支援活動。

この継続的な支援活動は、一部の誰かに負担がかからないよう、また、荷物を持てるものは、持つという自らの姿勢から保たれると思うのです。そして、力の在る者も無い者も、自分のできることから始め、そしてそれを継続していくことがあると思うのです。そして継続させるだけでなく、それが持続的であるかどうかが、これからの未来に関わってきます。

持続可能とは、先の5に述べた、全てへの配慮の姿勢にあります。それは一丁一石で出来るものではなく、関わる全ての人々が全体と細部に意識を向けることで、達成されていくことで、これで良い、という成功ではなく、日々山を登るようなことでもあるかもしれません。ある一定の状態をキープするには、モチベーションなく実現できるものではありません。そのモチベーションをいかにキープするかは、最終的には個人に任せられるのですが、この企画に賛同してくださる皆様とは、継続的であることを前提に参画いただけたら光栄です。そして、そのことにより、日本を始め、世界の子どもたちの一人でも多くが平安となり、世界中に輪が広がっていくことを願っています。



Project Shanti Kids: Desson Class : 絵を描くことは自分の内側を観ることから。

## 8. シェアリング、そして協力。

シェアリングとは、現在自分が持っている力でどれだけ全体に対し貢献できるかということですが、とにかく支え合う精神を發揮して、協力という活動に結びつけることは、これからの世界に必要なものだと考えています。そのようにして、ますますそれぞれの肩の荷が軽くなり素晴らしい未来へと繋がると思うのです。たとえば、プロジェクト内で何かが必要になった場合でも、出来る範囲でプロジェクトに参加するなど同業仲間に声をかけて、互いの負担を最小限に抑えるとか、そういうことです。

ネパールの小学校でアートプログラムを行った時のことです。「ここにあなたの大好きなマンゴーが一つしかありませんが、皆さんどうしますか？」と訊ねると、迷いなく「みんなで分ける。」と言ってくれるのです。この授業の中で、最も大切にしていることは、全体と部分の繋がりについてです。とくに人間の体と地球は実は一つであるという捉え方が、中医学にもインドの医学アーユルヴェーダにも伝えられています。子どもたちのほとんどは、ヒンズー教徒か仏教徒です。ネパール初代大統領のお名前はプルティヴィー国王といいますが、まさに地球、大地のことを示しており、また多くの民族と宗教の集まるあの地域を収めた有名な方でいらっしゃいます。 私たちは、シェアすること、協力し合うことで、これまでに

ない、本当に豊かで平安な社会を地球の上に築いていけると信じています。



UDCC Nepal Art program: 狹い机の上で、3人で同じテーマで一つの絵に仕上げる。

## 9. 最後に

この企画は向こう18年継続させたいと願っています。この18という数字は、インドの聖典 Veda の中で、中でも特に智慧の光が詰まった Essence of Veda といわれる18章からなる Bhagavad Gita から引用しています。この18という数字は、9の2倍ですが、インドでは9という数字をもっとも尊んでおり、Nava=9が名前についた方が沢山います。この本は、悟りの道筋を示しています。第1章は、アルジュナクライシングヨーガと言われ、苦難に立たされた王アルジュナが、嘆き悲しんでいるところから始まります。しかしその真意は、苦しみの中でこそ、神のそばにいられる、思い出すからです。そして第2章はサーンキャヨーガと言われ、知識のヨーガを示し、第3章では、カルマヨーガ、行為によるヨーガを示しております。展覧会とイベントに関わる人たちの全員の愛の意識の成長を願ってのことです。そして、人はだれでもゴールがあることで、達成感があるものであります。継続的と申しましたが、18年後の地球が、今よりも住みやすく平安なものでありますように、そしてそれに近づけて行けるようにと願ってのことでした。

最後までお読みいただきありがとうございました。お一人でも1社でも多くの協賛・協力が得られ、多くの方とプロジェクトをシェアしていくことを心より希望しております。



Namaste :魂へのあいさつ Photo by India UDCC leader : Manu Pandey  
ナマステとは、全ての生き物の中にある同一の神に向かって挨拶をすること。

第1回 日本と世界の子どもを結ぶアートの森 第1回東京銀座展  
場所 :jtrip Art Gallery 開催日程:2012.14(Tsu)-18(sun)  
主催:NGO UDCC 国際共通食協力センター(市民団体) 代表齋藤かおる  
実行委員会 Project Shanti Kids :Jtrip Art Gallery • NGO UDCC  
案内ブログ URL: <http://shantiudcc.exblog.jp/>



NGO UDCC 市民団体ロゴマーク



Project Shanti Kids ロゴマーク